

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470800622
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
事業所名	グループホーム そよ風
訪問調査日	平成 20 年 9 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 11 月 14 日
評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1470800622
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会
事業所名	グループホーム そよ風
所在地	神奈川県横浜市金沢区町屋町11-16 (電話) 045-780-3106

評価機関名	社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会		
所在地	神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2		
訪問調査日	平成20年9月25日	評価確定日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(平成20年7月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	3人, 非常勤 9人, 常勤換算 5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造 耐火建築物 造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	--------------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	56,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(260,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,300円			

(4) 利用者の概要 (平成20年7月31日事業所記入)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		2名	要介護2		3名	
要介護3		4名	要介護4		名	
要介護5		名	要支援2		名	
年齢	平均	80.8歳	最低	68歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院湘南病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

- ◆京浜急行線金沢文庫駅、金沢八景駅からバスで5分の住宅地にある。近隣には区役所・商店・公園・神社があり、買い物や散歩に活用している。
- ◆事業所では、安心な生活と住み慣れた地域の人々とのふれあいを大切に、家庭的な環境のもとで自立した安らぎのある生活を支援している。
- ◆利用者は四季折々の年間行事を楽しみ、夏祭り・盆踊り・料理教室・カラオケ・敬老会・保育園などに出かけている。
- ◆医療面では、協力医療機関となっている同一法人の総合病院と連携をとり、利用者の健康管理に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では改善課題はなかったが、前回の外部評価受審から1年の間に、食の安全(食材管理・衛生管理)対策、防災対策マニュアルを整備し、職員研修を行った。前回の評価結果は職員と家族に配付するとともに、運営推進会議にも報告している。評価結果は誰でも見られるように玄関に置いている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を実施する意義について職員間で確認したうえで、ミーティングで職員の意見を聞き、施設長が自己評価をまとめた。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月ごとに、利用者・家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センター・施設長・職員の参加により、開催している。運営推進会議では、運営・行事・外部評価等の報告を行い、外部の委員からは町内会行事・町内会防災避難場所の案内を受けるなど地域との関係を築き、サービスの向上に活かしている。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談・苦情の申し立て先を重要事項説明書・運営規定に明記している。玄関にご意見を置くとともに、苦情相談に関する事業所内外の相談窓口を紹介したポスターを掲示している。家族会を家族が集まる行事(花火大会、食事会など)にあわせて開催して、家族の意見等を募っている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・老人会に加入して、夏祭り・盆踊り・カラオケ・ハワイアンダンス・敬老会に参加している。地域包括支援センターの料理教室・カラオケ・折り紙教室にも参加したり、保育園の行事にも招かれている。地域の理解を得るため町内会班長を務めたり、散歩コースを広く顔見知りが多くなってきている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時の施設長と職員全員で作成した独自の理念「安心と安寧に満ちた生活」を支援することを大切に継承している。利用者が住み慣れた地域の中で家族や地域の人々との交流を通じ、職員と明るく楽しく生活することを支援している。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関・事務室に掲示するとともに、理念の実践に向けて、毎朝のミーティングや職員会議で話し合い、利用者一人ひとりの尊厳を大切に日々の介護に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・老人会に加入し、夏祭り・盆踊り・カラオケ・ハワイアンダンス・敬老会に参加している。地域包括支援センターの料理教室・カラオケ・折り紙教室にも参加したり、保育園の行事にも招かれている。地域の理解を得るため町内会班長を務めたり、散歩コースを広くとり顔見知りが多くなってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果を職員に配付して、評価を実施する意義について職員間で確認している。今回の自己評価は、ミーティングで職員の意見を聞き、施設長がまとめた。前回の外部評価で改善課題はなかったが、前回の外部評価受審から1年の間に、食の安全(食材管理・衛生管理)対策、防災対策マニュアルを整備し職員研修を行った。前回の評価結果は家族、運営推進会議にも報告し、評価結果を玄関に置き誰でも見ることができるようにしている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに、利用者・家族・町内会長・民生委員・地域包括支援センター・施設長・職員の参加により、開催している。運営推進会議では、運営・行事・外部評価等の報告を行い、外部の委員からは町内会行事・町内会防災避難場所の案内を受けるなど地域との関係を築き、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	横浜市健康福祉局から多種の情報提供があり、研修・会議の通知があれば参加している。金沢区役所担当課とはスプリンクラー設置など、事業の相談に乗ってもらっている。運営推進会議の発足には、金沢区役所担当課から町内会長・民生委員への働きかけがあった。生活保護受給者がいるので、区生活保護課とも連絡を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態は家族の来訪時に説明し、突発的な病気・ケガは、電話で知らせている。手紙による連絡は疎遠になりがちになるため、家族には月に最低1回は訪問を促している。金銭管理は預かり金方式を採用し、家族の来訪時に出納帳で確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談・苦情の申し立て先は、重要事項説明書・運営規定に明記している。玄関にご意見箱を置くとともに、苦情相談に関する事業所内外の相談窓口を紹介したポスターを掲示している。家族会を家族が集まる行事(花火大会、食事会など)にあわせて開催して、家族の意見等を募っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の勤務シフトを組む際には、職員個々の休暇や資格取得研修参加の希望を聞き、また、職員の急な休暇取得も、職員間で話し合い調整するなどして、利用者に影響のないよう配慮している。職員の異動や離職時には、利用者・家族に説明し、新しい職員は先輩職員から利用者との関わりを学び、少しずつ利用者との関わりを持つようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修は介護の基本教育と実地訓練を行っている。現任研修はICFアセスメントケアプラン・ICF介護・ターミナルケア・過重労働対策・人材育成など多種を受講している。受講者は会議で報告し、職員間で情報の共有をはかっている。介護福祉士などの資格取得支援があり、今年度は4名受験する予定である。合格者には法人が受験費を負担する。また、法人の施設長会議での意見交換や事業所間で相互訪問をおし、資質の向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神奈川県認知症高齢者グループホーム協議会と横浜市グループホーム連絡会に加入し、研修の受講、意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。横浜市グループホーム連絡会では幹事を務めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居面談の際に、事業所の説明を行うとともに、利用者本人・家族には見学を勧め、行事を見たり一緒に食事をしたりして雰囲気を感じてもらっている。入居後は、利用者本人が落ち着くまで家族に訪問の協力を依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に食事・後片付け・洗濯物たたみなどを行っている。職員の悩みを聞いてもらうこともあり、職員が2、3日休むと「どうしたの」と心配してくれたり、外出する際には「ティッシュペーパーを持って行きなさい」と気にかけてくれるほどの関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と家族の思いや意向の把握は、入居時にフェースシート・アセスメントシートに基づき、様々な角度から聞いている。入居後は日常の会話の中や様子から把握し、職員間でカンファレンスを行い、共有をはかっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで利用者・家族の意向を聞き、職員間でカンファレンスを行い、利用者の視点に立った個別具体的な介護計画を作成している。家族に説明し、同意をもらっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎朝の申し送りで利用者個々の心身の状態を確認し、状態の変化を察知した場合は、随時カンファレンスを開催して介護計画の見直しを行っている。介護認定の変更時にも見直ししている。状態が安定している利用者については、3～6ヶ月ごとに見直しを行っている。また、かかりつけ医の意見も取り入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人が運営する総合病院と連携し、認知症に関しては総合病院の精神科に通院している。入院時には病院や家族と連絡をとり、事業所での生活を早く送れるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居前の医師か、事業所が契約している協力医療機関の往診医を選択してもらっている。協力医療機関の内科には月に1~2回、精神科及び歯科には随時通院している。入居前の医師及び協力医療機関への通院時には、事業所で送迎を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアは行っておらず、同一法人の特別養護老人ホーム等への入所をすすめている。職員は終末期ケアの外部研修を受講し、今後の対応に向けて法人内で検討を始めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて、利用者・家族及び職員とそれぞれ契約時・採用時に説明し、同意書・誓約書を取り交わしている。重要書類は事務室の書庫に施錠保管している。職員の態度・言葉遣いについて、採用時研修のほかミーティングで日常的に指導している。訪問調査時の職員の態度・言葉遣い・トイレ誘導は穏やかな対応であった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのマイペースの暮らしを支援している。その日の利用者の要望にあわせ、散歩・買い物・図書館等への外出を楽しんでいる。訪問調査時には、集団でレクリエーション・歌謡が好きなグループと、個々に好きな塗り絵・裁縫・おはじきを好むグループと、それぞれ自由に過ごしていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞き、利用者と職員が同じテーブルにつき談笑しながら、同じものを食べている。また、下膳・テーブル拭き・おやつ作りは利用者とともにやっている。また、丑の日・ひな祭りなどには出前を取ったり、外食も取り入れて、食事が楽しみなものになるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞き、一日おきに入浴している。菖蒲湯・ゆず湯は好評となっている。一番風呂が好きな人には、一番風呂に入ってもらっている。浴室・更衣室ともにエアコンを設置し、季節に応じて室温調節を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いある生活をおくってもらうため、利用者一人ひとりの力を活かして、食事の挨拶・下膳・テーブル拭き・掃除を担ってもらっている。散歩・買い物・公園や寺院まわり、事業所内外の四季折々の行事や家族と一緒に行事を行い、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員が付き添い、気晴らしや外気浴のため、天気がよければ毎日買い物・散歩に出かけており、生活リハビリになっている。さらに、年越しには近くの寺に除夜の鐘を聞きに行ったり、施設長が大型運転免許を所持しているため、レンタカーを借り、家族も参加してのドライブツアーを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、昼間は施錠せずに、職員が見守るとともに、安全のためセンサーによるチャイムを設置している。現在、徘徊の傾向のある人はいない。居室は、利用者が居室内から掛けられるようになっていたが、安全確認のため居室外からも開けられる造りになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器・消防署直結の自動火災報知器を設置、飲料水・乾パン・非常持ち出し備品を備えている。運営推進会議で、外部の委員から町内会防災避難場所の案内を受けている。防災対策マニュアルを整備し、職員研修を行っている。消防署に消防訓練計画を提出し、年に2回自主避難訓練を計画しているが、本年は未施行である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの摂食量を毎食後チェックシートに記録している。水分摂取には配慮しているが、水分摂取量の記録はしていない。栄養バランスやカロリーチェックは、同一法人の総合病院の管理栄養士にチェックしてもらっている。利用者の嚥下の状態にあわせて、刻み食・とろみ食を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや洗面台は車椅子対応となっている。共用空間の家具・照明は一般家庭と同じものを使用し、窓が広くて明るく、風通しが良く、清潔を保持している。居間には生花・観葉植物を飾り、塗り絵など利用者の作品、花見行事の写真、人形などが飾られ、家庭的な雰囲気となっている。訪問調査時には、レクリエーション・歌謡が好きなグループと、個々に好きな塗り絵・裁縫・おはじきを好むグループがあり、自由に過ごしていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた愛着のある家具などの持ち込みを勧めており、居室には馴染みの整理だんす・三面鏡・テレビ・人形・写真などが持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫している。また、居室に収納・洗面所を備えている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものであるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム そよ風
(ユニット名)	グループホーム そよ風
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市金沢区
記入者名 (管理者)	加藤 健二
記入日	平成 20 年 7 月 31 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事務所、玄関付近に独自の理念を掲示している。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎日始業前のミーティングにて確認している。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	事務所、玄関付近に理念を掲示し、入居者、家族等の訪問者にも確認でき、職員も常に認識できるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近所の方々とは顔を合わせると立ち話をするなど和やかな雰囲気での交流できている。	○ 立ち話をする程度で、何か具体的な交流を行いたいと考えている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域包括支援センターや町内の行事には積極的に参加している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる		○	地域住民の皆さんへ介護について情報提供できる場を設け、地域に貢献する必要があると考える。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果については、職員に伝達し取り組むべきことを確認している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回に開催している運営推進会議では、GHの考え方、運営状況を説明し、地域の方々から貴重な意見頂戴し、サービス向上へとつなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は、生活保護を受けている入居者の処遇について、生活保護課との関係が中心となっている。	○	金沢区役所の各課の関係者の方々との関係を築き、さまざまな場面において必要なことについて、情報提供していただけるような関係作りをしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在2名の入居者が成年後見制度を利用している。後見人の方々とはさまざまな関係が築けている。	○	現在の利用しているケースを基に成年後見制度の利用を進めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、必要に応じて職員には情報提供をし、周知している。	○	日常の激務や入居者との深い関係を築けていることが逆効果とならないように虐待の定義やさまざまな虐待のケースを職員に伝達していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には、必ず家族、本人に施設を見学していただき、施設関すること、入居後に想定できることを説明し、納得した上で契約、入居していただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には、本人の不安等を考慮し、面会の機会を多く持ち、外出や外泊を薦めている。	○	入居後の入居者の感想を家族以外にも打ち明けられるような機会が設けられる方法を考えることも重要であると考えている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に入居者の生活の様子を報告するほか、個人の金銭出納帳を必ず確認していただいている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に入居者の声を伺えるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングでさまざまな意見を出していただくようにしている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者が散髪を希望したり、日常生活に必要な物の購入を希望した場合は、その日もしくは翌日等に対応できるように職員の調整をしている。	○	退職や入職などの理由でも入居者の希望に対応するよう調整している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職については、入居者に事実を伝え、それ以後は他の職員で対応できるよう職員の意思統一を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		○ 職員の人材育成については、職員が目標を持てるような支援が必要と考える。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の研修会に参加し、情報を得ようとしている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	夏は納涼会、冬は忘年会を法人単位で開催する他、施設でも個別に開催している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得のための研修会に参加希望があれば、勤務を調整する他、その研修に必要な費用の負担ができるよう法人としても努力している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話での問い合わせから始まり、入居の如何に問わず見学を薦め、相談に応じるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	同上	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の段階では、担当ケアマネジャーがいることが多く、できることは限られるが、できる限りの情報を提供することに努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、必ず家族、本人に施設を見学していただき、施設に関すること、入居後に想定できることを説明し、納得した上で入居していただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日、職員は食事の際は食卓をともするなど入居者とともに行動する機会を多くするように努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は、時には入居者の声を伝え、時には家族の希望をかなえる努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族には、GHに入居しても家族の時間を設けていただくことが大事であることを伝えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		○	入居者が認知症であることを馴染みの人に知られたくないが、仲のいい人には会いたいと希望があれば、その希望を叶えられるように配慮していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のコミュニケーションが取りづらい場合は、職員が仲介するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後は、特養等に入所するケースが多く、公的な手続きの支援が主となっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の生活リズムを大事にしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室内は、本人の馴染みの物を可能な範囲内で持ち込み、本人の希望に沿って部屋のレイアウトを行っている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の生活リズムを大事にし、入居者の行動パターンの把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	「本人がどのような生活を送りたいか」を主として考え、それを叶えられるように家族等と相談して介護計画を作成している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している		○	介護計画は、入居者の状態に合わせて柔軟に変更をかけていく必要がある。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さいことも介護記録に記録し、毎日のマーティングではさまざまなことを情報交換し、毎日の処遇につなげている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態や季節、天候、行事等を考慮し、一日のスケジュールにこだわらない対応を心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域包括支援センターや町内の行事には積極的に参加している。	○	入居者一人一人の希望に応じて外部の機関を利用した支援方法を考えていく必要がある。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	通院時には、個人の身体機能に合わせ、搬送サービスを利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している		○	地域包括支援センターとは、行事での協力が中心となっている。入居者のためとなることを積極的に行っていききたい。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の希望によりかかりつけ医を決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>同じ法人内に訪問看護ステーションがあり、医療連携体制を導入することを検討中である。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴染みの関係が築けており、親近感のある対応を心がけている。	○ 日々の業務により、介護の基本的なことを忘れないよう、定期的な介護の基本を学ぶ機会を作りたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者自身が思いを打ちあけられるような雰囲気作りに努めている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の生活リズムを大事にしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみなど本人の嗜好を大事にしている。理美容店のスタッフともなじみになっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを大事にし、食事を提供しているが、現在は職員が食事作りを担当している。	○ 入居者とともに食事作りを行い、楽しさや充実感を感じてもらえるような取り組みを行う必要がある。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在、お酒、喫煙は行っていない。その他、食事やお茶菓子は、入居者が楽しみにしていることであり、ありきたりにならないように努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンチェック表を活用し、排泄の誘導、介助を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日おきの入浴としている。毎日、散歩の時間を設けており、天候等の事情で入浴時間を変えている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者一人一人の睡眠パターンを把握し、その状況に応じた対応を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	かつての生活リズムを尊重した生活を送っていただくようにしている。	○	GH側の都合により、一日を過ごしてしまうことがあり、入居者の生活歴をもっと詳しく理解することが必要である。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、関係者との相談により、本人の希望があれば、現金の自己管理ができるようにしている。また、その現金は、外出時自由に使うことができるようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候によって、毎日外出する機会を設け、声掛けを行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族へは、外出する機会を作っていただくように勧めている。また、個別に希望がある場合には、なるべく希望をかなえることができるよう配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、施設の電話にていつでも電話できるようにしている。また、外部への手紙についても自由に出せるようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等の関係者には、いつでも面会に来ていただき、家族との時間を多く持っていただくように勧めている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる		○	職員会議にて、身体拘束、高齢者虐待についての研修を行った。今後は、外部研修へ積極的に参加し、さまざまな事例等についても学んでいきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、常に鍵が開いている。		
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は、各入居者の行動パターンを把握することに努めている。リスクや問題は毎日のミーティングにて情報交換している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品については、各入居者、家族と相談し、代替品または置き場所を替えるなどの対応を行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	今までに起きた事故を教訓として、同じ事故がないように、入居者の状態、行動の把握に努めている。	○	事故等の危険因子がどこにあるか、どのようなときに起きるのかをさらに職員一人一人が学ぶ必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている		○	救急対応の訓練の研修に今後参加していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を計画中である。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	各入居者の認知の状態や今後考えられることを家族とよく相談し、対応策をとっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化には常に気をつけている。また、各入居者の体調の変化の際はどのような状態になり、その際はどのような対応を取るか確認している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、職員が管理している。服薬は、個人個人の専用の容器に保管し、服薬する時毎に分類し、どの職員でも服薬の支援ができるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便のパターンを記録しているほか、水分補給、適度な運動など便秘防止に努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、各入居者に歯磨きの声掛けを行っている。不十分な入居者には付き添い、見守りながら口腔衛生に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食の嗜好、量や食べ方を把握し、各入居者が美味しく、楽しく食事ができるように努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から戻ったら、手洗い、うがいをする事としている。嘔吐などの症状が出たときは、処理の仕方の取り決めに従い、感染防止に努めている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に台所の清潔を保つようになっている。また、換気扇は定期的に清掃することとしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の前には、鉢植えやベンチを置き、誰でも立ち止まれる雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のテーブルには、季節の花を飾ったり、季節感を感じられるものを置いている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、ソファがあり、入居者同士くつろぎながら過ごせるようになっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースは限られているが、入居者の好みで自分の部屋作りをしていただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日、窓を開け、喚起に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすく、分かりやすいを基本に家具等をレイアウトしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一言二言あれば一人で出来るように配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	洗濯物を職員と干したりするなど入居者とともに有効に活用している。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- 毎日の清掃によりきれいな施設作りを心がけている。

- 天候がよければ、必ず散歩や植木の水遣りなどで外気に触れるようにしている。